

琵琶と人形浄瑠璃

が織りなす、義経のかたち

- 第一部「人形浄瑠璃」 第二部「琵琶語り」 -

貌

2025年10月4日(土)

開場 13:00 開演 14:00 途中休憩あり
終演予定 16:15

会場：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 能楽堂

新潟県新潟市中央区一番堀通町3-2

「貌」^{かお}、義と情のあわいにて、

第三回 響きと人々 古澤史水・巫美麗二人会



主催：巫舞台（ふぶたい） 問合せ先：050-3575-1177（しのだ）（10時～18時） 後援：新潟市
助成：アーツカウンシル新潟（（公財）新潟市芸術文化振興財団）「文化芸術活動に関する支援事業」





「義経は語られるが、語らない。」
人々の語りや思いによって浮かび上がる
その『貌(かお)』は、今もなお、はっきりとは見えない。

本公演の挨拶

琵琶語りを「生きた芸能」として多角的に創造・表現する巫舞台(ふぶたい)主催の公演を、今年も新潟で開催します。第三回となる今回は、人形浄瑠璃と琵琶語りの二部構成で、「義経、そして共に生きた人々」の物語をお届けします。

プログラム

- 解説- げんじえぼしおり
■ 第一部 人形浄瑠璃 猿八座「源氏烏帽子折」
-休憩 15分- かんじんちょう
■ 第二部 琵琶語り 古澤史水・巫美麗「勸進帳」
(終演時間16:15予定)

開演前と休憩中に琵琶と人形遣いの体験ができます！



演目

源氏烏帽子折(げんじえぼしおり)

江戸時代の劇作家・近松門左衛門が、義経誕生の伝説をもとに描いた初期の代表作。能や幸若舞を下敷きに、母常盤御前と義経たち兄弟が平家の追手を逃れて落ち延びる姿を、義と情の交錯のなかに描き出す。

勸進帳(かんじんちょう)

能『安宅』をもとに、歌舞伎など様々な芸能で語り継がれてきた義経伝説の演目。兄頼朝に追われ、山伏に変装し逃れる義経と弁慶一行。行く手を阻むは、加賀の関所・安宅の関。家臣の忠義と情けの狭間で人々の心は揺れ動く。

古澤 史水



巫 美麗



古澤 史水 フルサワ シスイ 薩摩琵琶奏者
宮崎県日南市出身。2000年全日本琵琶楽コンクール第一位。
平家物語をはじめ、新作にも挑戦し、人々の心に脈々と流れる『惻隠の情』に重きをおいたドラマティックな語り・琵琶演奏を信条とする。錦心流琵琶全国一水会会長。

巫 美麗 ウー メイリー 琵琶師(薩摩琵琶奏者)／巫舞台主宰・The Wu Stage-
台湾生まれ日本育ち。薩摩琵琶錦心流 古澤史水氏に師事。
主宰する「巫舞台・The Wu Stage-」では、日本の伝統芸能を基盤にしながらも、折りや物語を通じた舞台表現を探索し、琵琶語りの新たな地平を切り拓く。

人形浄瑠璃「猿八座」
猿八座座長/西橋 八郎兵衛 ニシハシ ハチロベエ 太夫/渡部 八太夫 ワタナベ ハチタユウ
1995年、佐渡にて座長・西橋八郎兵衛により旗揚げ。佐渡に伝わる「文弥人形」を基礎に、数ある説経・古浄瑠璃の中から、現代に響く作品の復活上演に取り組む。西橋八郎兵衛は1970年、文楽人形遣い・吉田養助に入門し、吉田養司の名で舞台を務める。1979年に文楽を退座し佐渡へ移住、地元の文弥人形座に入座し、後に「猿八座」を創設。2011年からは渡部八太夫が座付きの太夫となり、佐渡の文弥節を基盤に、古曲の復曲と新作の作譜を手がける。猿八座は、伝統人形芝居の継承と新たな可能性を拓く活動を続けている。

スタッフ
演出・広報:木村あさき 舞台監督:権藤 智海(U.G.Channel) デザイン:Honoka(Insta@ho.whi.me)

料金

一般: 4,000 円 / U25・障害者割引: 2,000 円 障害者1名につき同伴者1名無料

全席自由 当日は上記金額より500円増。※同伴者がいる場合は、事前にメール又はお電話で事務局にご連絡ください。

予約

ご予約は以下3つの方法から承ります。

チケットは当日受付でのご精算・お渡しとなりますが、前売価格でのご案内となります。

①メール:fubutai7@gmail.com ②電話:050-3575-1177 (10時~18時) ③HP予約はこちら↓

【ご予約の際は以下をお知らせください】

・お名前・人数・連絡先・割引ご利用の有無(※障害者割引で同伴者がいる場合も明記)



前売

りゅーとぴあ インフォメーション(窓口販売のみ)・チケットぴあ[Pコード303733]